

楽しく学びながら、ディープラーニング解析によるAI画像認識プログラムの作成を体験できる  
**ロボホンを活用した小学校向けAI教育プログラムの実証授業を実施**



操作画面イメージ

シャープは、コミュニケーションロボット「RoBoHoN（ロボホン）」を活用した小学校向けAI（人工知能）教育プログラムを新たに開発。2月10日より3月4日（予定）まで、東京都小金井市立前原小学校において実証授業を実施します。

2020年度より全面的に実施される新「学習指導要領」により、小学校でのプログラミング教育が必修化されるなど、ICT教育はさらなる普及が見込まれます。また、政府が策定した「AI戦略2019」では、顕在化するAI人材不足への対応として、学校でのAI教育の必要性が説かれています。

こうした中、当社は小学校におけるプログラミング教育をはじめ、ICT教育の導入を積極的に推進する松田孝氏（合同会社MAZDA Incredible Lab代表／東京都小金井市立前原小学校・前校長）による監修のもと、ロボホンを活用した授業カリキュラムの作成と学習効果の検証を行います。

実証授業では、ブロック状のオブジェクトの組み合わせで、ロボホンの動作や対話プログラムを作成できるソフトウェア「ブラウザ型プログラミングツール」※1を活用。Googleが提供するディープラーニングフレームワーク「TensorFlow Lite」を本ソフトに組み込むことで、ロボホンのカメラ機能を使ったAI画像認識（ディープラーニング解析）を体験できます。児童は、自身の表情や特定の物体などをロボホンのカメラで連続撮影し、本ソフトに学習させます。これにより、類似の画像をロボホンのカメラで認識させると、特定の返答や動作をするプログラムを作成することができます。また、一連のプログラム作成体験を通して、AIについての理解を深めるとともに、児童自身がAIの利点や課題を考える機会を提供します。

シャープは、本プログラムの効果を実証後、学校や塾などの教育機関に提案してまいります。

■ **本実証授業の概要**

使用機器	実証場所	期間
① 「RoBoHoN」 <SR-03M-Y> ② 「ブラウザ型プログラミングツール」 <SR-B04AT> ③ プログラム作成用パソコン (各16セット)	東京都小金井市立 前原小学校 (5年生を対象)	2020年2月10日～3月4日 (第一弾として全5回の授業を予定)

※1 ロボホン用の「ブラウザ型プログラミングツール」に関する詳細は以下のウェブサイトをご参照ください。  
<https://robohon.com/co/programming.php>